ニともに生きる暮らしをめざしてニ
尾張地域福祉を考える会
まごころサービス尾張センター

まごころ尾張

平成8年　9月1日 No. 39
〒491　一宮市北園通5-6-4　五藤荘205号
☎・FAX　0586-73-8707

ミニデイサービス便り NO.15

8月1日(木)晴れ　利用者さん・9名(男2女7)

紙粘土で手は真っ白・・・

紙粘土で何か形を作りだそうと手と頭を使ってみることにした。

丹念にこねて何が出来るかなあーと思っていると細長い棒状がいつの間にかキュウリやなす・瓢箪の形に変わった。小さく丸めた粘土の粒をあわせればぶどう一房の出来上がり。若き日のご自分のトルソーをいとも簡単に作られたのには驚いた。

「こんなこと、はじめてやるがネ。」といいながら皆さん結構素晴らしい出来栄え。

「おしゃべりしながら楽しくやりましょう」と言っていたスタッフ、利用者さんに負けじと黙ったまま手だけが動いていた。

粘土が乾わいて色付けする次のデイサービスが楽しみだ。果たして、なすやキュウリにみえるでしょうか。

お誕生会に歌のプレゼント 炭鉱節にあわせて盆踊り

Hさんのお誕生会。仲間の皆さんからは歌のプレゼントをすることになった。お一人お一人マイクの前で遠慮がちに緊張されながらそれでも楽しそうな歌声が続いた。そのうち炭鉱節を女性のHさんが披露。手拍子も合わさってその場は盆踊り会場に。

〃掘って掘ってまた掘ってー〃ふりの説明の声に歌声がまじって騒がしい。

保育園の子供が遠くからじっとのぞいていた。

「なにやってんだ？？？」とでもいいたげな顔。

誕生日を迎えられるHさんはご病気の後遺症で少しお体が不自由。どうぞいつまでもお元気で・・・。

9月のデイサービスは9月5日と19日です

7月活動状況

活動件数	19件
活動人数	25人
活動時間	334.5時間

7月会員登録状況

協力会員	44人
利用会員	41人
賛助会員	115人
計	200人

私達がめざすものは～～～

有償で非営利の住民参加型在宅福祉サービスの歴史は十数年あまりで、その理念はまだまだ十分な理解を得ていないのが実情のようです。私達が有償にした理由は、そのほうが具体的に意味のある活動が出来ると考えたからです。

◆◆◆

支え合いの活動にはいろいろなものがありますが、とりわけ介護支援は、イベント型や慈善的なボランティアでは担えない要素があります。一つには継続性であり、もう一つには要介護者及び家族介護力の自立の支援です。

◆◆◆

私達の活動は、助け合いの精神に基づき、利用する人、支援する人が謝意と経費をお互いに認め合い対等な関係を保ちながら支え合いを行う。そこにはおのずと、「やってあげる」「やってもらう」「ついでにやってください」型の活動は存在しないことになります。

自分たちが誇りを持てる活動でなければ、大きな意味での本当の支え合いが出来ないと思われますがいかがでしょうか。

◆◆◆

私達が出来ることは、担える部分を継続的に当てに出来るケアとして確実に提供することであり、その家族が一番安心出来る自立支援を社会的にサポートしていくことではないでしょうか。

講演と交流の集い 九月二十一日(土)

「療育音楽」高齢者・障害者のための音楽療法

・・・・音楽で若々しく ドレミでリハビリ・・・・

演題・・「生涯青春・百年人生・音楽で若々しく」
　　高齢者音楽療法のすすめ
講師・・赤星建彦氏（財）東京ミュージックボランティア協会会長
日時・・平成八年九月二十一日（土）午後一時～三時
場所・・一宮スポーツ文化センター　三階小ホール
参加費・・二〇〇円（会場費として）当日会場で受付
主催・・尾張地域福祉を考える会　まごころサービス尾張センター

◆講演・交流会終了後会場にて手作りお菓子のバザーを行います。ご協力をお願い致します。

バザーのお菓子作りにご参加下さい

ところ・・ききょう会館調理室
日にち・・九月十七日（火）
　　九月十八日（水）
　　二日とも午前9時～午後4時

多数のご参加をお待ちしています

赤星建彦氏プロフィール

大正10年東京生まれ。音楽の普及、劇場音楽監督、作曲など手掛ける。

昭和52年（財）東京ミュージックボランティア協会設立し、全国各地で高齢者・障害者のための赤星式音楽療法を指導、25年間にわたって実践、研究。

同協会理事長を経て現在会長。

レコード作品「ドドンパNO.5（ポリドール）ヒット賞」「あなたのお名前何てエの？（ポリドール・トニ 一谷）」等、著書に「ドレミでリハビリ」「ちんどん人生」等がある。

◆療育音楽とは◆

リズムを体に感じ、手で調子をとる。歌を唄ったり、楽器を奏でたりして、楽しくリラックスしながら高齢者や障害者のリハビリテーションにつなげようというもの。音楽療法は、現在全国で四〇〇を越える施設で実施されており、民間施設での導入だけではなく、厚生省モデル事業の一環として痴呆性老人に音楽療法導入の試みや、行政として音楽療法事業に取り組んだり、又一施策として取り上げられるなど多くの注目を集めている。